富士第一小学校だより

かじま

全国学力・学習状況調査特別号

令和７年９月吉日

本年度の全国学力・学習状況調査が４月に行われ、７月末にその結果が届きました。６年生の子どもたちには夏休み前に個人結果を配付しました。今回の学校だより特別号では、富士第一小学校の全体の結果をお知らせするとともに、結果から考察したこと、そしてお子様の成長に関して大切にしたいことを、お伝えしていきます。

全国学力･学習状況調査とは

全国学力・学習状況調査は、小学６年生と中学３年生を対象に毎年行われています。文部科学省や教育委員会が、児童生徒の学力や学習状況を全国的に把握・分析、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることが目的です。学校には、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善などに役立てることが求められています。

この調査は、「教科に関する調査」と、生活習慣や学習環境に関する「質問紙調査」で構成されています。「教科に関する調査」は、「知識・技能、思考力・判断力・表現力等は、相互に関係し合いながら育成されるもの」という新しい学習指導要領の趣旨を踏まえ、基礎知識と活用力を一体的に問うように構成されています。

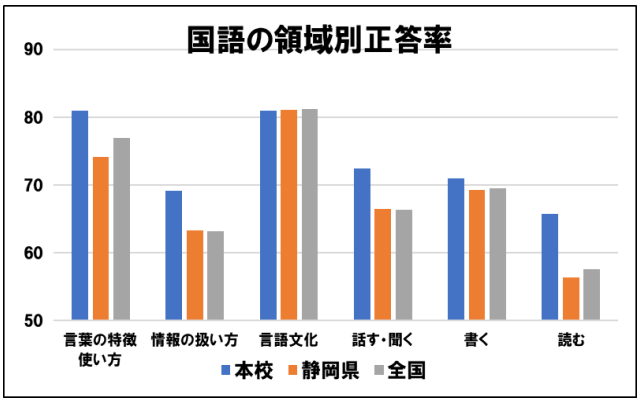
富士第一小学校の結果と課題

１　教科に関する調査から

各教科の結果を、【領域別】【問題形式別】【観点別】の３パターンで表しました。

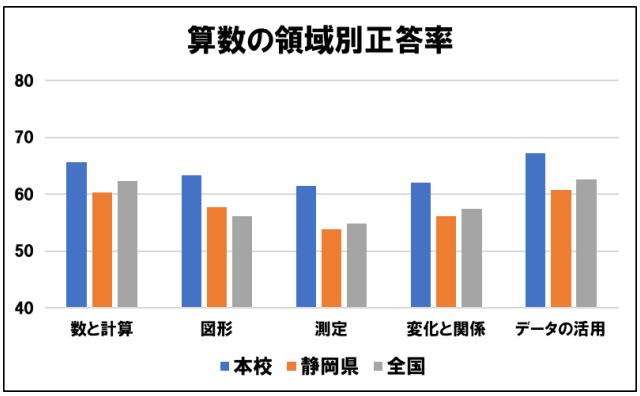
領域別正答率

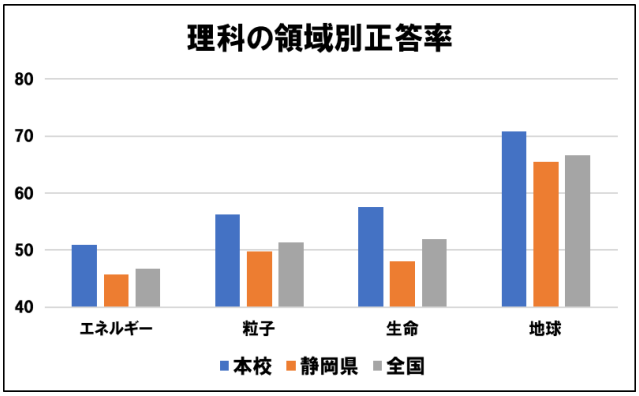
（各グラフの一番左が本校です。）



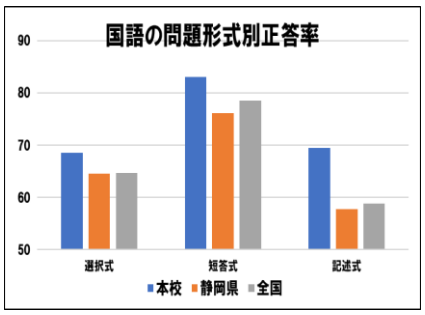
本校の領域別正答率は県平均と全国平均と比べて国語は５つの領域で、算数と理科は全ての領域で、上回りました。

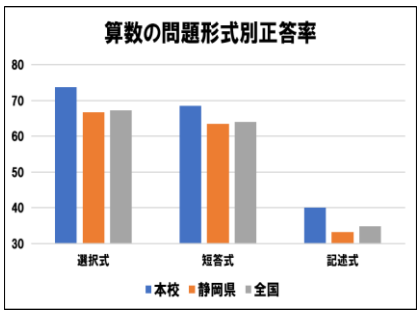
全国的にみると、国語では、「情報の扱い方」や「読む」の領域が、正答率が低かったです。算数では、「測定」に関する項目が低く、どの領域も６割程度の正答率でした。理科は全国的に「地球」に関する領域以外は50%程度の正答率でした。

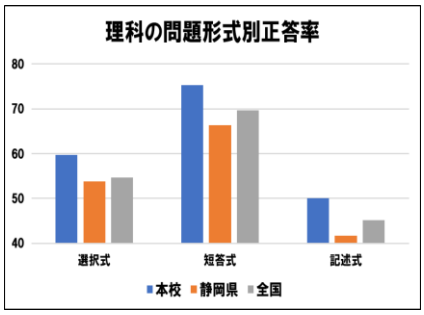




問題形式別正答率

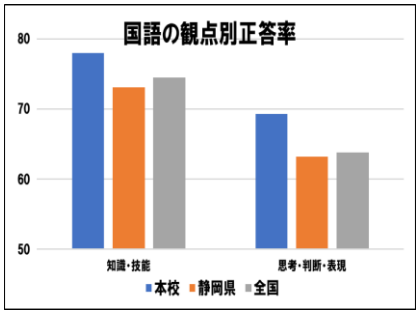


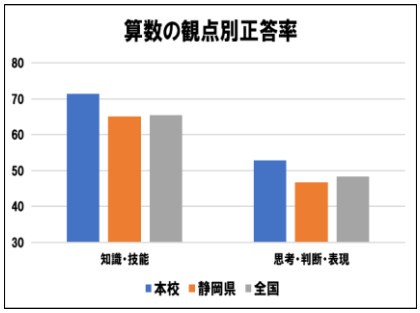


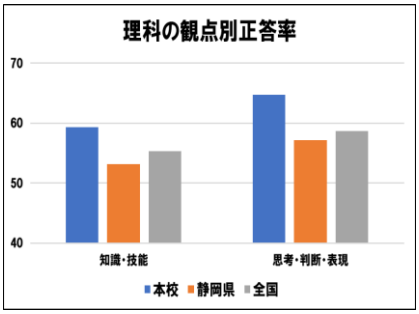


全国的に記述式の正答率が低い傾向が見られます。例年この傾向にあります。しかし、本校の記述式の正答率は、選択式や短答式よりも県や全国の正答率との差が大きく、記述式に強い傾向が見られます。日々の授業の中で振り返りを行い、「文章を書く」「自分の意見を書く」ことに取り組んできた成果だと考えられます。

観点別正答率







国語・算数は知識・技能の正答率が高く、理科では思考力・判断力・表現力の正答率が高く、傾向が異なりました。

《国語》

〈成果〉

「情報の扱い方」や「読む」の領域は、全国的に正答率が低く、課題が見られましたが、**本校はこの２つの領域が県・全国と比べて特に正答率に差があり、高かった**です。唯一、県平均と全国平均を下回った「言語文化」も 0.2%というわずかな差でした。

県・全国に比べて正答率が特に高かった問題と低かった問題は以下のとおりです。

県・全国より特に正答率が高かった問題

- 「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる。」　【記述式】（**本校 68.2%** 県 53.7% 全国 56.3%）
- 「自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうかをみる。」　【選択式】（**本校 82.7%** 県 71.4% 全国 71.8%）
- 「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる。」　【選択式】（**本校 50.9%** 県 40.1% 全国 40.8%）

県・全国より正答率が低かった問題

- 「書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができるかどうかをみる。」　【選択式】（**本校 58.2%** 県 64.2% 全国 65.5%）

ＩＣＴを活用して学び方を選びながら学習に取り組んだり、自分の学びを文章で振り返ったりしてきたことで、「必要な情報を取捨選択する力」や「自分の考えを文章で書き表す力」が付き、全国や県に比べて高い数値として表れています。今後も、文章を、段落相互

の関係を考え、要点を掴みながら読む学習を繰り返し行うことで、文章の構成を考える力を身に付けられるようにしていきます。

《算数》

〈成果〉

どの領域もバランスの取れた正答率でした。本校は全ての領域で県・全国を上回り、特に全国的に低かった「測定」に関する領域は、県・全国よりも６%以上高い正答率となりました。

県・全国より特に正答率が高かった問題

- 「目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる。」【記述式】（本校 38.2% 県 28.4% 全国 31.0%）
- 「台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる。」【選択式】（本校 63.6% 県 54.4% 全国 50.2%）
- 「『１０%増量』の意味を解釈し、『増量後の量』」が『増量前の量』の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる。」【選択式】（本校 48.2% 県 39.1% 全国 40.9%）

県より正答率が低かった問題

- 「平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することができるかどうかをみる。【短答式】（本校 60.0% 県 61.4% 全国 58.3%）

平行四辺形の特徴や作図についての学習は４年生での学習内容です。既習事項を活用できているものとできていないものとあることが分かりました。既習事項を生きた知識として活用できるよう、繰り返し学び直し、確実に定着できるようにすることが大切です。授業だけなく、家庭学習のチャレンジノート等で、既習事項を繰り返し復習していけるようにしていきます。

《理科》

〈成果〉

全国的に「地球」に関する領域以外は 50%程度の正答率でしたが、本校では算数と同様、全ての領域で県・全国を大きく上回り、50%を超えるものばかりでした。特に「生命」に関する領域は県・全国よりも５%以上高い正答率となりました。

県・全国より特に正答率が高かった問題

- 「ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いているかどうかをみる。」【短答式】（本校 78.2% 県 62.4% 全国 70.7%）
- 「水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる。」【選択式】（本校 66.4% 県 54.3% 全国 57.5%）

県・全国より正答率が低かった問題

- 「身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかをみる。」【選択式】（本校 6.4% 県 9.4% 全国 10.6%）
- 「氷がとけてできた水が海に流れていくことの根拠について、理科で学習したことと関連付けて、知識を概念的に理解しているかどうかをみる。」

【選択式】（本校 59.1% 県 60.5% 全国 60.9%）

花のつくりは５年生、水の状態変化については４年生の学習内容となります。授業で取り上げた学習内容に関しては、県や全国よりも正答率が高いことが分かりました。一方で、県・全国より正答率が低かった問題は、３～5 年生で学習した内容を組み合わせながら、実際の生活や現在の社会問題につなげて答えを見出す必要がある問題でした。このことから、本校は理科では知識の活用に課題があることが分かりました。今後、実生活の中から

課題や疑問を見出して学習につなげたり、学習したことを実生活のどの場面で役立てられるのか考えたりすることをこれまで以上に増やし、子どもたちが理科を学ぶことの楽しさや、有益性を感じられるようにするとともに、実際に役立てていけるようにしていきたいと思います。

2 学習状況に関する調査(児童質問用紙)から

教科に関する調査とともに、児童の学習状況について、質問形式で回答する調査も行いました。70 項目以上あった質問項目の中で、県・全国と比較して特に数値が高かったものと低かったものを取り上げ、富士第一小学校の特徴及び特色となりうる結果についてお知らせします。

	質問項目 数値は、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えた子	富士第一小	静岡県	全国
全国・県より高い	学校の授業以外に１時間以上学習している。	**62.3**	55.9	54.0
	学校の授業時間以外に、30 分以上読書をしている。	**36.8**	31.1	31.1
	読書が好き。	**73.6**	68.1	69.7
	５年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、ほぼ毎日使用した。	**67.0**	52.5	46.7
	算数の勉強が好き。	**68.9**	59.5	57.9
	算数の授業の内容がよく分かる。	**83.0**	78.1	78.3
	算数の勉強は得意。	**68.9**	60.9	60.3
	学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている。	**89.6**	85.1	83.3
	将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思う。	**35.9**	28.7	30.0
全国・県より低い	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。	**70.7**	81.4	81.3
	５年生までの学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器で分からないことがあった時に、すぐ調べることができる。	**79.2**	89.4	89.2
	健康にすごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立てている。	**69.8**	81.1	80.0
	理科の勉強は得意。	**66.0**	76.2	78.4
	理科の勉強は好き。	**65.1**	80.0	80.1

学習面でみると、内容がよく分かる教科が、得意な教科となり、好きな教科になる傾向があります。本校６年生の子どもたちは、算数は好きだけれど、理科には苦手意識があるようです。学年が上がるにつれ、内容も難しくなっていきます。理科において、実感を伴いながら理解ができるように、実験や観察等の体験的な活動を多く取り入れたり、実生活と結び付けて考えられる機会を増やしたりしていき、理解がより深まるようにしていきたいと思います。

気になる点として、「地域や社会を良くするために、何かしてみたいと思う」の項目も県や全国に比べて低かったことがあげられます。本校はこれまで、地域教材を活用しながら子どもたちが地域との結び付きを考え、大事にしていけるように取り組んでまいりました。今回の結果を踏まえ、教育活動を見直し、これまで以上に、地域教材や地域人材を活かしながら地域を大事にできる子どもたちに育てていきたいと思います。

一方で県・全国と比べて特に数値が高かったものは、読書に関する項目でした。学校図書館に足を運びやすい環境を整えたり、学校全体で子どもたちの読書活動を称揚したりしてきたことで、子どもたちが意欲的に読書に取り組み、数値となって表れてきたのではないかと考えられます。読書は子どもたちの人生を豊かにする大切な経験です。今後も子どもたちが意欲的に読書に臨めるよう、ハード面でもソフト面でも、環境を整えていきたいと思います。

3　これから富士第一小学校が願う子どもの姿と学校の取組

今回の調査や普段の実態から、本校の子どもたちは、学習に対しての意欲が高く、得意な教科が好きな教科につながっていること、授業で扱った内容がしっかりと定着していること、自分の考えを文章に表して表現できることが分かりました。一方で、既習事項を応用して生活に役立てること、地域への思い、タブレットの活用の仕方には、まだ、伸びしろがあると感じています。

今後はこれまで以上に、子どもたちが主体的に学習に臨み、全ての教科において学ぶことが楽しいと感じられることを目指していきたいと思います。本年度、本校では「みんながわくわく！子どもたちの手で進む授業」を研修テーマとし、子どもたちが主体的に学習に臨めるようにするための様々な手立てや授業の在り方について検証しています。様々な方法を用い、主体的に学ぶ中で、学習したことが生きた知識・技能となり、様々な場面で活用してみたいと思える、そして実際に活用できる子を目指していきます。

【参考】　以下は本校児童が特に正答率が低かった問題です。

算数　3(2)　5年「数と計算」の学習

（本校 24.5%　県 20.0%　国 23.0%）

(2)　ひろとさんたちは、分数のたし算についても、小数で考えたようにふり返っています。

まず、みおりさんは、$\frac{2}{5}+\frac{1}{5}$ についてまとめています。

みおり

$\frac{2}{5}$ は $\frac{1}{5}$ の 2 個分、$\frac{1}{5}$ は $\frac{1}{5}$ の 1 個分です。
$\frac{2}{5}+\frac{1}{5}$ の計算は、$\frac{1}{5}$ をもとにすると、2 + 1 を使って考えることができます。

$\frac{2}{5}+\frac{1}{5}$ は、**もとにする数**を $\frac{1}{5}$ にすると、整数のたし算を使って計算することができます。

次に、ひろとさんは、$\frac{3}{4}+\frac{2}{3}$ について考えています。

ひろと

$\frac{3}{4}$ は $\frac{1}{4}$ の 3 個分、$\frac{2}{3}$ は $\frac{1}{3}$ の 2 個分です。
もとにする数が $\frac{1}{4}$ と $\frac{1}{3}$ でちがうので、同じ数にしたいです。

$\frac{3}{4}+\frac{2}{3}$ についても、**もとにする数**を同じ数にして考えることができます。

もとにする数を同じ数にするとき、その数は何になりますか。その数を書きましょう。また、$\frac{3}{4}$ はその数の何個分、$\frac{2}{3}$ はその数の何個分ですか。数や言葉を使って書きましょう。

3/4＋2/3について、共通する単位分数と、3/4と2/3が、共通する単位分数のいくつ分になるかを書く問題です。

【正答例】

3/4 と 2/3 のもとにする数を同じ数にするとき、その数は 1/12 になります。3/4 は 1/12 の9個分、2/3 は 1/12 の8個分です。

【本校の解答状況】

正答を書けた子の割合は 24.5%です。正答では、「①3/4 と 2/3 に共通する単位分数が 1/12 であることを表す数や言葉（分母が 12 の倍数の単位分数を含む）」と「②3/4 が共通する単位分数のいくつ文化を表す数や言葉」「③2/3 が共通する単位分数のいくつ分かを表す数や言葉」の３つの記載が必要です。本校は、①～③の記載ではなく、通分について書いているものが 31.8%と多かったです。分数の加法について、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、共通する単位分数を見いだすことで、整数の加法に帰着して考察できるようにすることが大切です。

理科　2(1)　3年「物質とエネルギー」の学習

（本校 6.4%　県 9.4%　国 10.6%）

(1)　アルミニウム、鉄、銅の性質について、下の **1** から **4** までの中からそれぞれ 1 つ選んで、その番号を書きましょう。同じ番号を選んでもかまいません。

1　電気を通し、磁石（じしゃく）に引きつけられる。
2　電気を通し、磁石に引きつけられない。
3　電気を通さず、磁石に引きつけられる。
4　電気を通さず、磁石に引きつけられない。

身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかをみる問題です。

【正答】アルミニウム　2
鉄　1
銅　2

【本校の解答状況】

正答を書けた子の割合は 6.4%です。全国や県も、正答率がとても低かったです。この問題では、身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることを理解している必要があります。そのため、自然の事物・現象と知識を関係付けたり、知識を相互に関連付けたりして、理解を深めていくことが大切です。

※全国学力・学習状況調査の問題は、インターネットで公開されています。